

経済産業省

令和3年12月21日

自家用電気工作物 電気主任技術者 殿

関東東北産業保安監督部東北支部電力安全課長

三菱電機株式会社製パッケージ型非常用発電設備に係る動作不良
について

令和3年12月20日、三菱電機株式会社長崎製作所（長崎県西彼杵郡時津町）が製造したパッケージ型非常用発電設備※において、動作不良により発電ができなくなる不具合が発生しているとの報告が経済産業省へありました（別添参照）。

つきましては、各電気主任技術者が保安管理を実施している自家用電気工作物において非常用発電設備を設置している場合には、機器の銘板を御確認の上、速やかに下記の三菱電機株式会社の問い合わせ先へ御連絡ください。

※ ディーゼルエンジンを用いた自家発電設備

問い合わせ先

三菱電機株式会社 長崎製作所 パッケージ型非常用発電設備サポート係

TEL 095-881-1142 FAX 095-881-1308

E-Mail : Pgsupport@zc.MitsubishiElectric.co.jp



2021年12月20日

各位

会社名 三菱電機株式会社
 代表者名 執行役社長 漆間 啓
 (コード番号 6503 東証第一部)
 問合せ先 広報部長 阿部 恵成
 (TEL 03-3218-2111)

当社の一部のパッケージ型非常用発電設備の動作不良予防措置に関する件

三菱電機株式会社は、当社の長崎製作所（長崎県西彼杵郡時津町）が過去に製造した一部の国内向けパッケージ型非常用発電設備^{※1}に動作不良（発電停止）の可能性があるため、対象製品の全数に対して設置現場において措置を実施しますので、下記のとおりお知らせします。

当社は、非常用発電設備の認証機関である一般社団法人 日本内燃力発電設備協会および関係省庁へ報告を行い、お客様（納入先）である老人福祉施設、病院、商業施設等へも順次報告のうえ、措置を進めているところです。

お客様や関係者の皆様に多大なるご迷惑とご心配をお掛けすることを深くお詫び申し上げます。

本件は、7月2日に当社が設置した調査委員会（委員長：西村あさひ法律事務所 木目田 裕、7月2日^{※2}および7月21日^{※3}公表資料参照）による調査の対象でもあり、同委員会での調査結果がまとまり次第、その原因等を公表する予定です。

なお、現時点で、本件による当期の連結業績予想の修正はありません。今後、お客様への対応や再発防止策の展開などに真摯に取り組む中で、影響が見込まれる場合には速やかに公表いたします。

※1 ディーゼルエンジンを用いた自家発電設備

※2 2021年7月2日公表「当社の品質風土改革に向けた取り組みについて」

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/news/2021/0702-a.html>

※3 2021年7月21日公表「調査委員会の委員決定について」

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/news/2021/0721-a.pdf>

記

1. 対象製品、動作不良の内容、実施する予防措置等について

製品名	動作不良の内容	予防措置の内容	対象製造期間	対象台数
パッケージ型 非常用発電設備 ^{※4} (PG シリーズ、2020年に生産を終了)	電圧制御回路のコンデンサ1個の極性を誤って取り付けしたことにより、経年劣化や高温動作で電圧制御回路が誤動作し、保護機能が作動して、発電ができない可能性がある	応急処置としてコンデンサを無極性タイプに交換。 後日、恒久処置として電子基板を交換	2014年9月 ～ 2016年10月	出荷した309台の内、処置済みを除く296台
	発電機の回転子軸に接着しているスリップリング ^{※5} がずれを生じ、スリップリングに界磁巻線を接続する圧着端子が破断して、発電ができない可能性がある	応急処置として圧着端子部を補強。 後日、恒久処置としてスリップリングと回転子軸を固定	2001年10月 ～ 2010年9月	出荷した985台の内、処置済みを除く944台

※4 対象となる機種一覧は別紙のとおりです。

※5 発電するための磁界を生み出す界磁巻線（界磁コイル）に電流を送る回転コネクタ

2. 経緯とこれまでの対応

(1) コンデンサの極性誤り

2016 年 8 月、お客様への引渡し前試運転において、本製品が発電できない不具合（電圧制御回路の誤動作による保護回路の作動）が発生し、これまでにお客様の定期点検等において同事象が 13 台で確認されています。原因は設計時にコンデンサの極性を誤ったことによるものでしたが、長崎製作所で発生都度の処置としていました。発生件数が増加したこともあり対応方針について長崎製作所で再検討を行い、処置を終えていない残り 296 台について全数措置を行うこととしました。

(2) スリップリングのずれ

2004 年 9 月、お客様による定期点検において、本製品が発電できない不具合（圧着端子の破断）が発生し、これまでの定期点検等において同事象が 41 台で確認されています。長崎製作所では、発生都度の処置を継続しておりましたが、上記（1）のコンデンサの極性誤りと合わせて、処置を終えていない残り 944 台について全数措置を行うこととしました。本件については、調査委員会による調査を継続中です。

3. お客様からのお問い合わせ先

三菱電機株式会社 長崎製作所 パッケージ型非常用発電設備サポート係 TEL 095-881-1142 FAX 095-881-1308 E-Mail Pgsupport@zc.MitsubishiElectric.co.jp

以 上

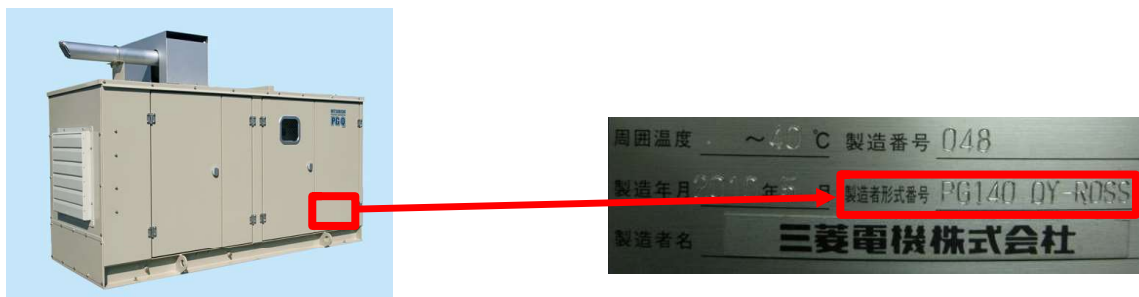
対象機種リスト

製品名	動作不良の内容	対象機種
パッケージ型 非常用発電設備 (PG シリーズ)	コンデンサの極性誤り	QX (PG155、PG220、PG255、PG330、PG355、PG400、PG490)
		QY (PG140、PG200、PG230、PG300、PG325、PG360、PG470、PG500)
		QW (PG500)
	スリップリングのずれ	PX (PG45) の 60Hz 仕様
		PY (PG40) の 60Hz 仕様
		QX (PG45) の 60Hz 仕様
		QY (PG40) の 60Hz 仕様

対象機種の確認方法

対象機種名は以下の方法でご確認いただけます。

1. 装置外面に貼付されている銘板の製造者型式番号でのご確認



2. 装置内の制御盤に貼付する「制御盤 製造銘板」の「MODEL」欄でのご確認
(制御盤の位置は機種によって異なりますが、のぞき窓がある外面パネルの位置にあります)

